

農福連携推進アドバイザー の活用事例

中央東農業振興センター

アドバイザー事業の活用に至った経緯

中央東農業振興センター管内の課題

- 中央東管内の3市（南国市、香南市及び香美市）における農福連携支援会議は、令和3年2月に南国市農福連携研究会が、令和4年2月に香南市農福連携研究会が設立されたが、就労に結びつく活動には至っていない。香美市には設立されていなかった。
- 障害者を直接雇用している農福連携実践農家はいるが、就労を定着させるためには関係機関からのサポートが必要。
- そこで、農福連携就労定着サポーターと連携し、令和5年10月から毎月、農福連携座談会を開催しているが、今後、さらに農福連携の取組を推進するには、3市の農業及び福祉の関係部署のネットワークの形成や農業や福祉の相互理解が必要。

アドバイザーへの依頼内容

- 南国市、香南市、香美市の各農福連携支援会議での活動を促進させるため、農福連携座談会での指導・助言
- こうち絆ファーム及び安芸地域における農福連携の取組紹介
- 農福連携に関する情報提供

実施状況

- ・ 第 1 回
令和 6 年 1 月 26 日（金） 13 時 30 分～16 時
- ・ 第 2 回
令和 6 年 2 月 27 日（火） 13 時 30 分～16 時
- ・ 第 3 回
令和 6 年 3 月 13 日（水） 13 時 30 分～15 時

アドバイザーの助言により導入したこと

- 意見交換の時間を長く配分するよう助言があり、開催時間を30分延長し、グループワークの場を設けるよう改善した。
- 内容については、農福連携実践農家からの取組事例の紹介、外部講師による情報提供を行う。
- 農福連携農家の更なる掘り起こしを進める。
- 農業に限定せず、幅広い分野の人を集めてはどうかとの提案があり、今後も参加者を通じて呼びかける。

アドバイザー事業を活用しての感想

- 障害者支援について様々な分野の専門家と協力し、決して自分たちだけでは解決していないこと、多くの関係機関を巻き込んで支援の輪を広げている。
- アドバイザーの協力により座談会では、触法者支援、日本農福連携協会での全国的な取り組みを情報提供することができた。幅広い知識、人脈があり、毎回新しい分野の事例を聞くことができた。
- アドバイザーを通じて、これまで関わりの無かった異業種の方々が集まり、座談会が人と人を繋ぐ場となった。

支援会議の今後

- 令和6年度は中央東圏域精神障害者支援ネットワーク会議が立ち上がりました。
- 座談会で生まれた人と人とのつながりを活かし、各関係機関のネットワーク促進を図っていきます。
- 振興センターは関係機関と連携した農福のマッチングを推進していきます。